



私たちと野鳥

高知県自然観察指導員連絡会副会長 須賀 康

今この地球上に存在する野性動物の中で、野鳥ほど広く私達人間の身近に生活しながら、接々な利益をもたらしてくれている動物は他に無いと言っても過言でないでしょう。

世界の国々は早くから、この自然界に生きる野鳥達の存在価値を知り、真剣にその保護対策を見直しました。この野鳥達の自然界・野・山・川・海それぞれでの生活の営みが、人間の農林水産業等に欠く事の出来ない絶対必要な存在であり、しかも直接人に危害を加える事もなく、却って人間生活に潤いを与えてくれます。文学、芸術、とりわけ歌や音楽、絵画等にその素晴らしさが表現され、老若男女、幼児迄も親しみ、四季を通じ、その場その所に違った声や姿で現れ慰めくれます。この小さな空飛ぶ鳥達の存在こそ、大自然の調和を構成する最も大きな要素といえます。その野鳥を守る事こそ、大自然を護り、人間を始め地球上生きとし生けるもの、総ての環境に異状なき事の物差しである事に日本もようやく気付いた事で、遅ればせながらも先進国並となったことは、お互い誠に喜ばしき限りです。

さて、この自然の友としての野鳥愛護方法にも色々な考え方がありますが、野鳥と親しみ間近に接する方法としては、寒い冬一番餌の少ない季節にミカンの輪切りやリンゴ、砂糖水、オレンジジュースを庭木や軒下におくと、パン屑等にも、メジロ、ウグイス、ムクドリ、ヒヨドリ、スズメの群れが押し寄せてきます。ガラス窓越しに間近で家族と共に親鳥するのも、楽しいものです。

北欧スウェーデンやノルウェーの雪国ではクリスマスイブに各家庭で小麦や燕麦の種付のまゝ家外に吊し晴れやかなクリスマスの朝を小鳥達の喜びの声と共に迎えるとの話や、“巣材に家の毛糸を使ってくれた” とかの自慢話を聞きます。会員の皆様も『一に愛情、二に愛情、三に環境、四に辛抱』の気持ちをもってどうぞお試し下さい。

今後とも、本会が野外観察会活動を通じて地域の自然保護にいささかでも貢献できる事を願う次第です。

参考文献「野鳥の招き方あなたの庭に」著者 橋本 英一、伊藤 正美(編)

発行者 佐藤 武雄 発行所 文研出版

平成元年度連絡会事業実施報告

十分とは言えませんが、平成元年度に行った事業は次のとおりです。すでに、連続会会報で参加者の方々から御報告いただいておりますが、今一度簡単に総括してみたいと思います。

1989年5月13日 13:00～14:00

第2回研修会 講演「モロッコの自然」

場所 県立牧野植物園本館 2F

内容 海外青年協力隊で活躍された宮田弘明氏を講師に迎え、スライドによりモロッコの自然を紹介していただく。

1989年5月13日 14:00～15:00

第2回通常総会

場所 県立牧野植物園本館 2F

内容 昭和63年度事業実績・決算報告、平成元年度事業・予算提案、その他

1989年6月10日 18:30～20:00

第2回自然観察会「ホタルを見るつどい」

場所 高知市朝倉米田

内容 講演「ホタルの生態と生息環境」岡部正明氏、「高知市のホタル」竹下英男氏、「夜鳴く野鳥」中西和夫氏・ホタルの観察
ホタル等を通じて、身近な水辺の環境保護を考える

1989年7月8日 14:30～16:30

第3回研修会「プレートテクトニクスの現地検証」

場所 住吉海岸

内容 現地の地質の成り立ちを今城雅彦副会長に解説していただく。

1989年8月20日

会報「ネイチャー高知」創刊号の発刊

内容 実施事業の報告、高知の自然保護団体の活動の紹介など。

1989年9月24日 17:30～19:30

第3回自然観察会「虫の音コンサート」

場所 南国市物部川大橋下川原

内容 美しく鳴く虫たちや植物、野鳥を通じて身近な自然環境保護を考える。

1989年10月8日

「サシバの渡り調査」 朝～晩

場所 鴻ノ森・烏帽子山・虚空蔵山・大平峰・清滝

協力 日本野鳥の会高知支部

1989年11月18日 14:00～17:30

第4回研修会スライド映写会「私の見た土佐の自然」

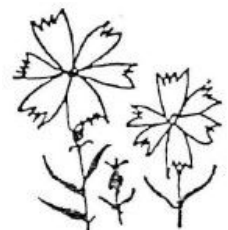
場所 県立牧野植物園本館 2F

内容 講演「基調講演」澤良木庄一支会長、「昆虫」別府隆守氏、「野鳥」中西和夫氏、「化石」三本健二氏、「ミカドアゲハ」川島宏重氏

1990年1月10日

会報「ネイチャー高知」NO.2の発刊

内容 実施事業の報告、シリーズ[自己紹介]、[見分けかた]
[土佐のレッドデータ・植物編] (別冊)など



平成2年度連絡会事業計画

平成2年度における連絡会の独自活動による事業計画を次のように計画いたしております。会員の皆様のご意見をいただきながら実施していきたく思いますので観察会のアイデア、研修会等の希望についてどしどしお知らせください。

(連絡先:事務局 0888-23-1111 内線 2280 橋本)

計画一覧表

	観察会・研修会テーマ等	摘 要
5	総会 (牧野植物園) 決算報告 平成元年度事業報告 平成2年度事業計画	: 担当者
	ミカドアゲハ観察会 特別天然記念物のミカドアゲハの観察とその保護の現状を学ぶ。	昆虫・植物・ ミカドアゲハ カタマキ : 別府
6	9 ホタルをみるつどい (高知市米田OR名切川) 環境週間行事の一環として自然環境の指標といえるホタルの観察を通じて地域の自然を考える。	昆虫・野鳥 ホタル フクロウ : 橋本
7	研修会 (宿泊研修)	
8	ドロニコ観察会 (高知市浦戸湾) 干拓に住む動物の観察とその生態系を学ぶ。	魚・動物・野鳥 : 三本 トビハヒ カ アサギ コサギ
	ミッドナイトウォッチング (高知城) 高知城周辺に生息する動物の夜の観察会	動物・野鳥・昆虫: 野町 ムサビ アオバシク アオマツムシ イチ ヨタカ
9	虫の音コンサート (高知市皿が峰) 秋の夜長にすだく虫たちの声に耳を傾ける。	昆虫・植物・野鳥: 箭野 スズムシ リンドウ モス コオロギ ツリガネコシジ
10	10 サシバの渡り観察 (県下各地) 野鳥の会と協賛して県下一円で定時観察を実施し渡りの基礎データの収集を行う。	野鳥 : 内村 サシバ.ハチクマ.ハクビ
11	スライド研修会 (牧野植物園) 会員相互の交流と成果の発表を目的とする研修会。	植物・動物・野鳥: 箭野
12		

自然保護関係組織の活動状況と行事予定

土佐植物研究会 1989 年の活動状況と 1990 年の活動予定

■ 1989 年の活動

1. 1989 年に実施した月例会

回	期 日	場 所	人数
176	1月22日(日)	牧野植物園(総会、スライド映写会)	21
177	2月26日(日)	奈半利町米ヶ岡白石神社～お茶屋場	17
178	3月19日(日)	佐川町尾川西山不動岩・穴岩谷	29
179	4月16日(日)	越知町横倉山 1.	25
180	4月30日(日)	土佐山村宮ノ前・日ノ浦	14
181	5月6日(土)～7日(日)	橋原町四万川茶屋谷・越知面峰ノ段	11
182	5月21日(日)	越知町横倉山 2.	8
183	6月11日(日)	愛媛県面河村土小屋～筒上山～笹倉	26
184	6月25日(日)	越知町横倉山 3.	10
特5	7月6日(木)～9日(日)	群馬県/福島県/新潟県・尾瀬	24
185	7月23日(日)	越知町横倉山 4.	8
特6	8月18日(金)～20日(日)	熊本県阿蘇杵島岳・菊池溪谷・波野村	17
186	9月10日(日)	大野見村萩中・島ノ川	19
187	9月17日(日)	越知町横倉山 5.	8
188	10月22日(日)	物部村白髪山～三嶺	18
189	11月19日(日)	室戸市室戸岬・元	8
190	12月2日(土)～3日(日)	大月町柏島・小才角～土佐清水市足摺岬	14

1989 年は上記のように 14 回の月例会と 2 回の特別例会を行った。植物目録作成重点地域は越知町横倉山で、標本は全て牧野植物園に保管し、整理後来年発行予定の『高知県の植物』第 11 号にリストを掲載する予定である。

2. 写真展の開催

1989 年 10 月 16 日～21 日まで、NHK ロビーで研究会としては最初の『花の写真展』を開催した。作品は最近会員が月例会などで撮影したものを中心に 88 点を展示、期間中 300 名もの人が鑑賞に訪れた。作品の一部はその後、NHK の行事や佐川町の清和病院、安芸郵便局などでも展示された。

3. 会員数

1988 年は 82 名であつたが、89 年に 9 名、90 年に 7 名の入会があり、現在 98 名である。



■1990年の活動予定

1. 1990年の月例会予定地

回	期 日	場 所	
191	1月15日(月:祝日)	牧野植物園	総会、スライド映写会 19
192	2月25日(日)	中村市下田～大方町田野浦	13
193	3月18日(日)	日高村横山	
194	4月	土佐山村工石山(1)	
195	5月	土佐山村工石山(2)	
196	6月	土佐山村工石山(3)	
197	7月	本川村伊予富士	
198	8月	物部村平家の岩屋	
199	9月	土佐山村工石山(4)	
200	10月	南国市稲生・十市	
201	11月	東洋町野根・甲浦	
202	12月	野市町	

特7	8月(予定)	長野県白馬岳	

1990年の植物目録作成特別地域は土佐山村工石山で、4回の月例会を予定。特別例会は8月初めに長野県白馬岳と、花の万博見学を予定。また、今年から四国四県の研究会との交流を計るため、合同観察会を8月に高知県で開催する予定。

2. 会報『高知県の植物』第10号の発行

現在編集中で、3月末をめどに発行予定。

3. 第2回『花の写真展』の開催

昨年と同じ10月に開催予定。

平成2年 高知昆虫研究会行事予定

- 5月20日 観察会予定 場所未定
- 7月14, 15日 笹ガ峰調査予定(本川村)
- 9月29日 研究会 高知女子大学 北舎 4階 動物学教室 午後2～5時
- 10月27日 研究会
- 12月3日 研究会、忘年会

日本野鳥の会高知支部探鳥会の予定

【支部長 西村公志】

★「工石山探鳥会」

日時…5月13日(日)

場 所…土佐山村・工石山

※貸し切りバスで工石山へ行きます。オオルリ、カッコウ、ホトトギス
ミソサザイ等の囀りを聞きに行きます：

★「石土池でテグスを拾う会」

日 時…6月3日(日)

場 所…南国市。石土池

※毎年多くのカモが越冬しにやって来る石土池で、カモたちが北国に帰っ
た時期を見計らって(1「テグス拾い」を行います。短時間でたいへん
な量が見付かります。野鳥たちを「テグス公害」から守ってやりたいと思います。

★「石鎚山探鳥会」

日 時… 6月10日(日)

場 所…石鎚山系

※石鎚山系でコマドリ、ホシガラス、メボソムシクイ、などを楽しめます。

★「高知城探鳥会」

日 時… 7月1日(日)

場 所…高知市・高知城

※夕暮れの高知城でフクロウの仲間のアオバズクを観察します。カや虫に対する予防をおこたりなく。

★「ビデオ・スライド会」

日 時… 8月26日(日)

場 所…高知市市民図書館。視聴覚室

※鳥影の少ないこの時期は、室内で勉強会をするにかぎります。

★「朝倉堰探鳥会」

日 時。■ 9月23日(日)

場 所…高知市・朝倉堰

※朝倉堰でカワセミなど身近な水鳥を観察します。

くわしい集合場所、時間等は下記の事務局までお問い合わせ下さい。

日本野鳥の会高知支部 ☎0888-75-34406

シリーズ土佐のレッドデータ

前号の植物に引き続き 1989 年 12 月 18 日に環境庁自然保護局野生生物課が発表した日本版レッドデータの掲載種の中で高知県内でいままでに記録のある種に○印をつけ紹介します。

哺乳類

絶滅種	○ニホオホカミ エゾオホカミ	ニホゾシカ	オキナオホウマ	オホクワアブラウマ
絶滅 危惧種	○ニホカク	クシヤマキ	イロモテマキ	
危急種	トウキョウカリスミ チウヒンゴジキスミ ワケビキスミ	オホクワオウマ アマミノクロウサギ アマミキスミ	オキナウサギ ナナキスミ ツバネ	ヒナガサライ クマシカ
希少種	アズミトカリスミ シロオトカリスミ オトカリスミ オビキスミ アジミステル シノミステル オトミステル エゾオホウマ オビオウマ	ダクオウマ ミヤマキツネ カクウマ ツバネ オビキ シノキ ヒメキ クマシカ カクウマ	オウマ クマシカ オビキ オビキ オビキ オビキ ○オビキ ○オビキ シノキ	ミヤマキ クマシカ ミヤマキ カクウマ エゾオウマ オビキ オウマ オウマ オウマ

爬虫類

絶滅種				
絶滅 危惧種	オビキ			
危急種	ヒメキ	リュウキュウマ		
希少種	アズミ オビキ ○アズミ クワイ	オビキ オビキ アズミ ヒメキ	オビキ オビキ ヒメキ オビキ	ヒナ



両生類

絶滅種				
絶滅 危惧種	オビキ	アズミ		
危急種	オビキ	オビキ	オビキ	オビキ
希少種	オビキ	アズミ	オビキ	オビキ



陸・淡水産貝類

絶滅種

絶滅 危険種	カワネジガイ ヒダリマキモノアラガイ ハチジヨウキヒムカイ エンガイ コシカエンガイ クチヒクエンガイ ツクエンガイ ナカホエンガイ マクホエンガイ	コクマエンガイ ソコホエンガイ チチマエンガイ ナカエンガイ オホエンガイ カトエンガイ ヒラヘクエンガイ エンガイイモトキ ハダヨシマキガイ	ヨシマキガイ ヒラヒマキガイ ホダヨシマキガイ ハダヨシマキガイ チチマキガイ アホシマキガイ アホシマキガイ スハスハマキガイ ソコホマキガイ	マキスマキガイ ニホマキガイ カサアキヒム ムラマキガイ チトマキガイ ナマキガイ ミカマキガイ
-----------	--	---	--	--

危急種

	ミヤギキムシガイ オナラムシガイ クビレイウシガイ ヤノシガイ ○クビナガムシガイ テンスオホアラガイ オホヨシマキガイ イシカキヒム ケショウキヒム ○イジマキヒム	ホウライギヒム キコヤギヒム トクネヤギヒム カサコギヒム マクホコギヒム ナカコギヒム ニシコギヒム クワキマキガイ クワジマキガイ アマノマキガイ	ヒメヨシマキガイ チシマヒメガイ チマキガイ ○ヒラマキガイ トクシマキガイ ミホロキガイ モリマキガイ オモロキガイ アホマキガイ キハマキガイ	ハダヨシマキガイ ホダヨシマキガイイモトキ ヒラヒムカイモトキ カサマキガイ ヌメマキガイ ヒシマキガイ アホマキガイ キノホマキガイ
--	--	--	--	--

希少種

	イトマキガイ モジマキガイ イトマキシノマキガイ イトムシガイ ナカチノムシガイ オホムシガイ クダアラムシガイ アキムシガイ ○マクホコギヒム ミズシタギ ニホシタギ ヒコシタギ キキコシタギ アホシタギ	コバキシノマキ ナカシノマキ ナカマキ ○コクマシノマキ アホシノマキ ナカマキ ハダヨシマキ アホマキ ソコマキ イトマキ イトマキ クビナガキヒム デマキヒム ミカマキヒム	シノマキヒム ○ナカマキヒム アホマキヒム ミホロマキ アホマキ ナカマキ クワシマキ ナカマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ アホマキ	ムラマキヒム クダマキヒム シノマキヒム オホマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム クダマキヒム
--	--	---	---	--

淡水魚類

絶滅種

クマシ	ミナトミヨ
-----	-------

絶滅
危険種

キクチ(マトウナノ地方型) オホマシ(陸海性アマコ) イヌ ムカキウツ	アリアシラウ アリアヒメシラウ ヒナヒロ ウシロコ	イシハシラ ニホマシラ スダマシラ ミツマシラ	アホマシ オホマシ アリアマシ ムカキウツ
--	------------------------------------	----------------------------------	--------------------------------

危急種

イト ゴキ	ウツマシ ムシ	ムシ ムシ	アホマシ
----------	------------	----------	------

希少種

ユウマシ シノマシ エツ ミナマシ オホマシ	ヒマシ(アマコノ地方型) シノマシ ヒマシ エツ アホマシ	オホマシ ○アホマシ クダマシ シノマシ ○イトマシ	○イトマシ アホマシ
------------------------------------	---	--	---------------

鳥類

絶滅種	ハジブゴイ カンムリワシガモ マジロウケイ リュウキュウカラスバト	オガクワカラスバト ミヤコシヨウペン キタキ ダイトウシヤイ	オガクワラガビチヨウ ダノカハナガクガ ダイトウヤマガラ ムジマダロ	オガクワラマシヨ
絶滅 危惧種	アホトリ チシマカラス ○コウノトリ トキ ○オジロウシ オガクワラノシ ダイトウノシ	○アマクサ ○イヌワシ カンムリワシ ライチヨウ タンチヨウ ヤンバノクイ アマミヤマシギ	ワミガラ イトビリカ ヨダクニカラスバト アガクワラカラスバト キハト シマフクロウ ワキチ	オーストリアカガラ ミビチ ○イロチヨウ オイトラツミ ハジマダロ オガクワラカワヒク
危急種	○カンムリカイツブリ クロウミツバメ シジュウカラカマン サカサガシ ○ツバシガモ ○ミサコ ○オオウシ	○オオカ チュウ ○ハヤブサ シマハヤブサ ○ナゲル ○オオノ オオクイ	○ヘラシギ シベリアオオハシシギ ○カラフトオオシシギ ○ゴシヤクシギ ○カンムリクミズメ カラスバト アマダ	アホトリ キントウアホトリ ウスアホトリ アホッコ ○オオヒヨク シリガシ
希少種	○アホトリ セロミズナギドリ ○ヒメクワミツバメ クワシシロウミツバメ アホトリカイツブリ アホトリカイツブリ ○オノノゴイ ○オオノゴイ ○シゴイ ズグロミツゴイ ○チュウキ ○カササギ ○ナゲル アホトリ ○クワラカイツブリ クオキ ○クワガシ	○マガン ○ヒシクイ ○コウチヨウ ○アホトリカイツブリ ○オシドリ ○トモエガモ ○アホトリ ○シノリガモ コウライト ○オオカ リュウキュウミ ○イワナ オオハヤブサ シベリアオオハヤブサ ゴジロオオトリ クワガシ ○カササギ	ツバメ ○アホトリ カ シマウケイ チシマシギ ○アホトリシギ ○キタキ シベリアチシマシギ ○オオシギ ○ヒメカサギ ○ナゲル オオトリ アホトリ アホトリ エリクワ ○アホトリ オオトリ オオトリ ○アホトリ オオトリ ○クミズメ	シロコバト リュウキュウオオノハシ キンマクワ ○アホトリ アホトリ モズミツゴイ チシマトリ クワラカイツブリ イシノミ オオトリ オオトリ オーストリアカガラ ○コシヨウ カササギ

〔参考〕

高知県版レッドデータブック淡水魚類

絶滅種	カジカ		
絶滅危惧種	オオウナギ		
危急種	カマキリ		
希少種	アカメ	イワナ	インドジョウ
	イドミミズハゼ	スナヤツメ	タネハゼ
	ドウクツミミズハゼ		

日本版レッドデータの高知県産種

陸・淡水産貝類の部

「貝類」とは、一般に軟体動物全体をいう。そのうち淡水産貝類には、腹足綱(いわゆる巻貝)と二枚貝綱とのものがあるが(二枚貝は陸産なし)、レッドデータに選定されたものに二枚貝はない。

掲載種・亜種数は、絶滅危倶種 34、危急種 39、希少種 54、計 127 である。淡水産は少なく、90%が陸産である。陸産貝類は、分布の狭いものが多く、とりわけ小笠原諸島や南西諸島などの島々には固有種も多い。掲載種の過半数は、離島に生息するものとなっている。

127 種・亜種のうち、高知県産のものは次の 6 種だけである。ただし、今後の調査によっては、これ以外の種が本県でもみいだされる可能性がある。

<危急種>

クビナガムシオイ [ムシオイガイ科]

1981 年に春野町荒倉の石灰岩地産の標本にもとづき新種として記載された。それ以前から知られていたのだが、「クチキレムシオイ」に同定されていたもの。原著には「極めて稀産」とある。

イイジマギセル [キセルガイ科]

龍河洞周辺の石灰岩地特産。

ヒラコベソマイマイ [ナンバンマイマイ科]

高知市～南国市の鉢伏山周辺の特産。

<希少種>

マルクチゴマガイ [ゴマガイ科]

徳島県東祖谷山村の高知県境周辺に分布。分布地は、従来徳島県だけとされたが、高知県でもみいだされた(香川県の多田昭先生の私信による)。希産で、分布も狭い。

コウチミジンツボ [ミズツボ科]

高知市秦泉寺の井戸水から発見された微小巻貝。最近(1987 年)、香川県でも打込みパイ井戸から同種がみいだされた。今後、県内の他地域でもみつかるかもしれない。

ナカムラギセル [キセルガイ科]

土佐山村～南国市自木谷の石灰岩地特産。

(三本健二)

<掲載種のランク区分>

絶滅種 日本ではすでに絶滅したと考えられる種又は亜種

絶滅危倶種 絶滅の危機に瀕している種又は亜種

「もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続は困難なもの。」

危急種 絶滅の危険が増大している種又は亜種

「もしも現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危倶種」のランクに移行することが確実と考えられるもの。」

希少種 存続基盤が脆弱な種又は亜種

「現在のところ「絶滅危倶種」にも「危急種」にも該当しないが、生息条件の変化によって容易に上記のランクに移行するような要素(脆弱性)を有するもの。」

【 シリーズ見分け方(2) 】

高知のタンポポの見分け方

自然科学写真協会 野町泰造

タンポポ属はキク科に属する植物で世界中で約 400 種、日本は約 20 種、高知県では 7 種が記録されている。近年、自然環境の変化に伴い開発が進んだ地域では外来種がはびこり在来種はその姿を失いつつある。徳島県の事例では初め小松島港周辺に侵入したセイヨウタンポポが今日では剣山一帯で大繁殖し標高 1,400m 付近の見越や夫婦池で普通に見られるのは林道等の開発による影響と考えられる。

タンポポ属の種類を見分けるポイントは主として花の総苞および総苞片の形、色、性質が大きな決め手となるが、その他、葉や果実の状態などでも区別される。

そうほうがいへん

A. 総苞外片はつぼみのときから、また花時にも反り返る。花は黄色 → 帰化種

- a. 果実(瘦果)は灰褐色 ①セイヨウタンポポ
- b. " は赤紫色 ②アカミタンポポ

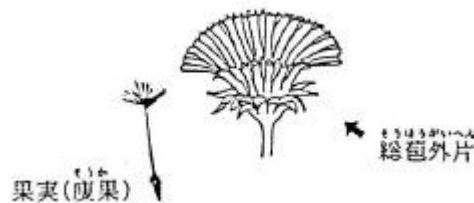
B. 総苞外片は花時にもあまり反り返らない → 在来種

- a. 花は白色 ③シロバナタンポポ
- b. 花は黄色 その他の在来種

高知県の在来種としてはシロバナタンポポが最も代表的なものであるがその他に記録されているもの。

- ④ ヤマザトタンポポ 花期 4 - 6 月 大豊町
- ⑤ カンサイタンポポ 花期 3 - 6 月 南国市, 大豊町, 佐川町等
- ⑥ ツクシタンポポ 花期 4 - 6 月 高知県西部の山地
- ⑦ クシバタンポポ 花期 3 - 6 月 高知県東部山間部

④ - ⑦の種の同定については紙面の都合で解説できませんが、野外で不明種のタンポポに出会ったときは植物園等に照会して確かめましょう。



セミの脱皮殻の見分け方

高知昆虫研究会 別府 隆守

近郊の森や山を歩いてセミのぬけがらを調べましょう。多く見られるのは、アブラゼミ、ニイニイゼミで、8月になるとツクツクボウシも見られます。クマゼミはセンダンや桜に多く、ヒグラシは杉、桧林に多く見られます。

エゾゼミグループは四国では1000m以上の山地に見られ、鳴き声(ギー)は聞く事ができますが成虫や脱皮殻を見ることは難しいでしょう。1番早く鳴き始めるのはハルゼミで4月～6月末位で、平地～山地の松林(海岸線沿いの赤松林に多い)でよく聞かれます。ヒメハルゼミは幡多地方に多く特に足摺半島には多くみられます。エゾハルゼミは1000m以上の山地に分布し6月～8月までみられます。鳴き声に特徴がありミョーケン キ キ キと聞こえます。

チッチゼミは8月～10月に見られますが、県内では別府峡で記録されているだけです。名前のようにチッチッと鳴くがその声は小さく注意していないと聞き取れません。

*自然観察ハンドブック P70 にぬけがらの見分け方のポイントがでてます。

種名	体長	触角	触 角 比	分 布
クマゼミ	35mm	8節	10:10:10:8:8:9:3:3,	平地～山地
アカエゾゼミ	34mm	8節	<u>20:18:18:17:16:14:8.5:9</u>	山地 1000m 以上
エゾゼミ	33mm	8節	<u>20:20:20:16:16:14:7:5</u>	〃
キュウシュウエゾゼミ	31mm	8節	<u>20:16:16:14:14:14:7:5</u>	〃
コエゾゼミ	30mm	8節	25:19:17:16:15:13:7:9	〃
アブラゼミ	32mm	7節	23:19:28:24:19:15:19	平地～低山地
ミンミンゼミ	28mm	7節	各節はほぼ同長	平地～低山地
ヒグラシ	25mm	8節	15:15:15:22:18:14:9:9	平地～山地1000m
ツクツクボウシ	25mm	8節	19:11:16:13:12:12:10:10	平地～低山地
エゾハルゼミ	19mm	7節	11.5:12:9.5:24:15:12:15	山地 1000m以上
ハルゼミ	19mm	7節	<u>12:11:7:24:11:8:11</u>	平地, 低山地の松林
ヒメハルゼミ	18mm	7節	<u>13:8:6.5:19:12:10:13</u>	平地～山地
チッチゼミ	18mm	7節	12:15: <u>16:10.5</u> :9.5:8.5:9	山地 局地的
ニイニイゼミ	18mm	7節	10:14:12:9.5:9:7.5:9	平地～山地

セミの脱皮殻の検索

体長により大(30 mm 以上)、中(25~28mm)、小(20mm 以下)、に分ける。
表を参考にしてください。

1) 大 30 mm 以上

1 平地、低山地に産する

A 触角は8節 体長35 mm 位 クマゼミ

B 触角は7節 体長30 mm 位 アブラゼミ

2 1000 m 以上の山地に産する

A 触角は8節

a 体長34 mm 位 触角2, 3節は1節より短く同長 7, 8節ほぼ同長 アカエゾゼミ

b 体長33 mm 位 触角1~3節同長 5節は6節より短い エゾゼミ

c 体長31 mm 位 触角2, 3節同長で1節より短い 4~6節同長 キュウシュウエゾゼミ

d 体長30 mm 位 触角1~7節逐次第に短くなり8節は7節より長い コエゾゼミ

2) 中 体長25~28 mm

A 触角は8節

a 脱皮殻に艶有り 触角4節は3節の1.5倍 体長25 mm 位 ヒグラシ

b 脱皮殻に艶なし 触角4節は3節より短い 体長25 mm 位 ツクツクボウシ

B 触角は7節

a 触角各節は、ほぼ同長 体長28 mm 位 ミンミンゼミ

3) 小 体長20 mm 以下

1 山地1000 m 以上に分布

a 体長20 mm 位 触角4節 ≤ 3節 + 5節 エゾハルゼミ

2 平地、低山地に分布

A 触角は7節

a 体長20 mm 位 触角4節 > 3節 + 5節 * 4節は大きく膨らむ ハルゼミ

b 体長18 mm 位 触角4節は3節の3倍以上 5節より先は急に細くなる ヒメハルゼミ

c 体長18 mm 位 触角4節は3節より短い チッチゼミ

d 体長18 mm 位 脱皮殻は全身泥をかぶる 丸い感じ ニイニイゼミ
* 脱皮殻1個体 異常個体?



実寸×0,8



1クマゼミ



3ミンミンゼミ



5ニイニイゼミ



7ハルゼミ



2アブラゼミ



4ヒグラシ



6ヒメハルゼミ



8ツクツクボウシ

手元に有る脱皮殻は、クマゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、ハルゼミ、ヒメハルゼミ、ニイニイゼミです。上記以外の脱皮殻及びエゾゼミグループ、ハルゼミグループの成虫を採集された方は私に下さい。

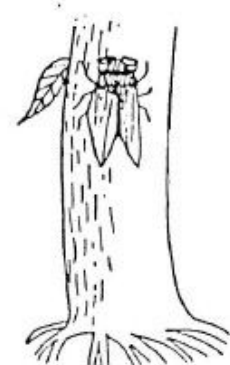
脱皮殻、成虫とも保管はフィルムケースに入れると良い。

平地 0m~50m. 低山地 50~500m 山地 500m以上

参考文献 北隆館 日本昆虫分類図説 第1集第2部 半翅目 セミ科 石原 保 著 昭和36年1月発行
思索社 自然観察ハンドブック 日本自然保護協会

*おわび カマキリの分類でカマキリとオオカマキリの区別がしにくいと思います。今年の秋までに分類しやすい様に改定版を作ります。

*お願い エゾゼミグループ ハルゼミグループの成虫、ぬけがら、セミタケ(セミのせいちゅう 幼虫に寄生する茸)の採集をお願いします。



身近な野鳥の見分け方Ⅱ

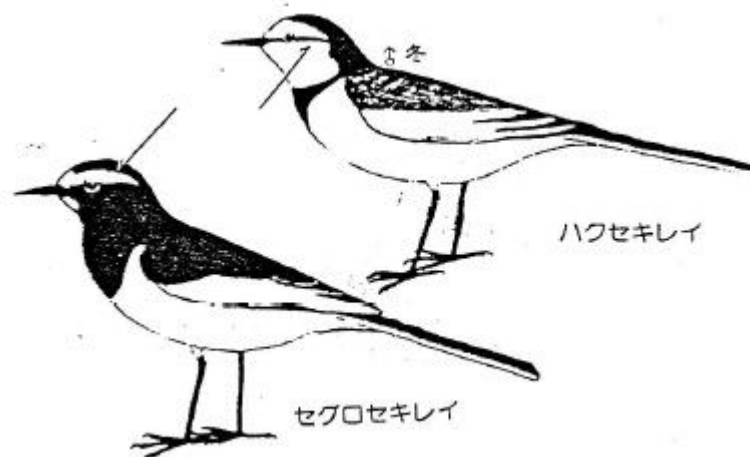
【西村公志】

今回で2回目になりました「身近な野鳥の見分け方」ですが、今回は高知県内で普通に見られるセキレイの仲間について紹介してみたいと思います。

県内で普通に見られるセキレイの仲間は、セグロセキレイ、キセキレイ、ハクセキレイの3種類があり、セグロセキレイとキセキレイは一年中高知にいる留鳥で、ハクセキレイは秋から冬にかけて高知で過ごし高知では冬鳥になっています。

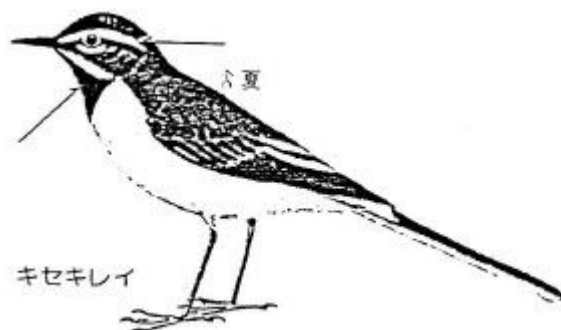
① セグロセキレイ・ハクセキレイ

セグロセキレイは、「黒い顔に白い眉」が特徴で、成鳥は背中も黒く見えますが、幼鳥の背中では灰色か灰褐色に見えます。ハクセキレイによく似ていますが、夏にこの「白と黒のセキレイ」を見たら、夏に高知にはハクセキレイはいませんので、それはセグロセキレイということになります。冬に「白と黒のセキレイ」を見たら、顔の部分を見てみてください。「黒い顔に白い眉」ならセグロセキレイ、「白い顔に黒い眉」ならハクセキレイということになります。ちなみにセグロセキレイは「高知市の鳥」に指定されています。ハクセキレイは、近畿地方以北では繁殖して留鳥となっていますが、高知では冬鳥になっています。



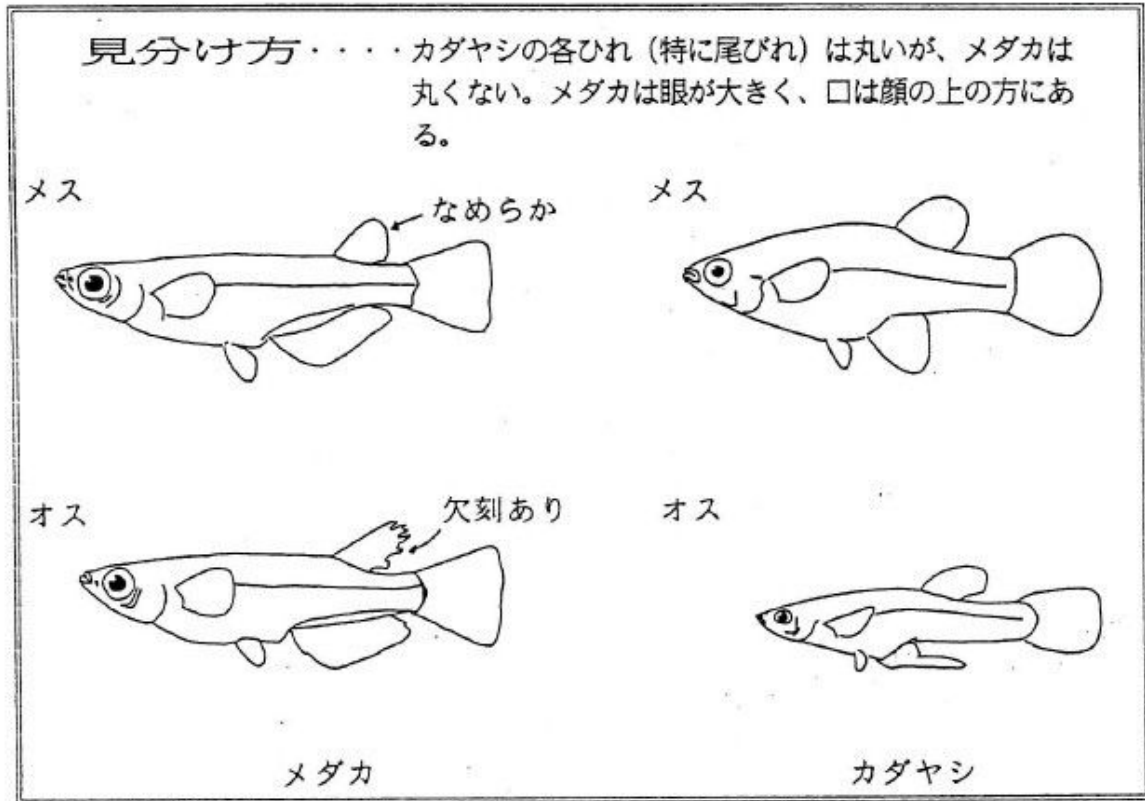
② キセキレイ

キセキレイは、おなかの黄色いセキレイで意外に高い山(1000～2000m)でも見ることができます。色が違いますので、他の2種類と見まちがうことはありませんが、ただ、できましたら「足の色」に注目していただきたいと思います。キセキレイの足の色はピンク色をしています。足の色が黒かったら、ツメナガセキレイとかキガシラセキレイなどの日本では珍しい鳥の仲間になります。



メダカとカダヤシの見分け方

【佐々木久夫】



メダカ

全長 3cm くらい。背びれは尾びれに近い位置にある。腹びれの中央にあり、尻びれは長く大きい。体は黄褐色で、背中に黒い線がある。雄の背びれ膜には大きい欠刻があるが、雌にはない。胸びれ・腹びれは雌の方が大きく、背びれ・尻びれは雄の方が大きい。水田の水路や川に生息する。ふつう群れで生活する。本州、四国、九州、沖縄に広く分布していたが、現在では少なくなっている。地方名は、3000 にも及ぶ。例えば、アブラコ、ウキス、ウルメッコ、コメンジャコ、ザッコ、タカメ、ミミンジャコ、メンザ、メンバチなどの呼び名がある。

カダヤシ

雄は全長 3cm、雌は 5cm に達する。体形はメダカに似るが、各ひれはすべて丸みがある。別名、タップミノー。メダカと同じような環境に生息するが、高温や汚水に対する耐久性がメダカよりも強い。

卵胎性。アメリカ原産の帰化動物。大正 2 年ごろ、マラリヤ病を媒介する蚊を駆除する目的で輸入された。現在では関東平野を中心として全国的に分布を広げており、在来のメダカを駆逐しつつある。

出典：環境庁、昭和 59 年、調査のてびき（第 3 回録の国勢調査）

事務局からのお知らせ

親子科学教室への参加のご案内

高知市子ども科学図書館と高知昆虫研究会により来る5月20日に下記の昆虫観察会が行われますが、本会も高知市子ども科学図書館の御理解をえて参加させていただき、本行事に協力をしながら昆虫への理解を深めていきたいと考えます。御案内が遅れて申し訳ありませんが当日は、本会の別府隆守氏、箭野雅美氏が行っておりますので多数の御参加をお願いします。

月・日	題名・場所・先生・時間	内 容	持参物・申込み・その他
5月 20日 (日)	〔昆虫採集会〕 (筆山公園) 高知昆虫研究会の先生多数 午前9時～11時半	9時筆山公園の上段の駐車場に集合。採集と観察のうえ標本の作り方などを習う。初心者歓迎。	メモ用具、採集用具(網、昆虫かご、三角紙等)できれば虫さされ予防薬。無料。 申込み32-7195へ

親子科学教室

(電話中込を原則。欠席は前日までは通知、当日は不用。)
(現地集合、現地解散。事故の補償制度なし、保護者でご注意ください。)

カスミ網による密猟を根絶するためのご署名について

野鳥の大量で無差別な捕獲が行われるため狩猟の猟具として“カスミ網”の使用が法令で禁止されていますが、カスミ網による密猟が現在も後を絶たないことから、この度(財)日本野鳥の会が密猟根絶の有効な手段としてご署名を集めてカスミ網の一般販売を禁止する等法令による対策を国会に求めていくことになり、日本野鳥の会高知支部から本会に対して協力の要請がありました。詳しい内容などについては、別途高知支部から会員個別にお願いをしていくとのことですので自然界の生態系を守るため御賛同のうえ会員の皆様方の積極的な御協力をお願いします。

「土佐の自然ガイドブック」について

県自然保護課が発行した土佐の「自然ガイドブック」を会員にいただきましたので同封します。会員の皆様方は、自然に親じむ機会も多いとおもいますので御活用していただければと存じます。

事務局の事情により3月末発行予定がサクラは散り、ツツジも見ごろを過ぎ、いつの間にかバードウィークになってしまいせっかく各自然保護団体の行事予定を掲載させていただいたのに行事が終わってしまったものもあり誠に申し訳ありませんでした。より一層の紙面の充実を図るため会員の皆様のご情報、ご投稿をお待ちしております。



編集委員

動物 : 野町 泰造 (TEL:0888-25-3356)
 昆虫 : 別府 隆守 (TEL:0888-33-2972)
 植物 : 鴻上 泰 (TEL:08875-3-5611)
 地質・地形・魚類 : 佐々木 久夫 (TEL:0888-43-6979)
 化石・貝類 : 三本 健二 (TEL:0889-26-3634)
 鳥類 : 西村 公志 (TEL:0888-75-3440)
 自然保護全般 : 中村 裕介 (TEL:0888-24-9268)
 " : 箭野 雅美 (TEL:0888-43-9288)

事務局

高知県自然保護課 : 橋本 淳 (TEL:0888-23-7600)